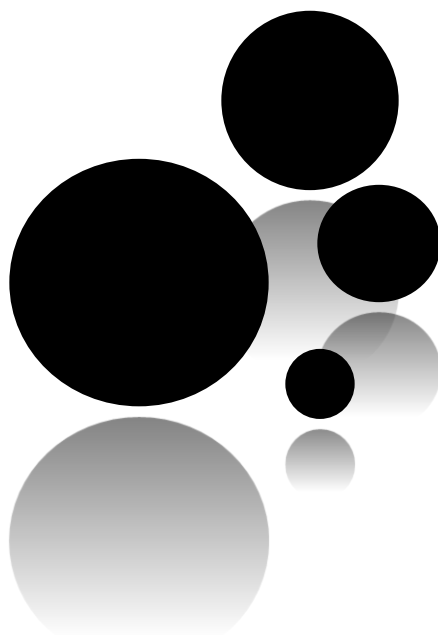


2022 夏 税理士オープンセミナー

【科目別攻略セミナー】

住民税



**各コース初回講義を無料で体験受講できます。
開講日に、各校受付へ直接お越しください(予約不要)。**

※ コースの開講日につきましては、「税理士パンフレット」をご覧ください。

TAC税理士講座

目 次

ページ

テーマ 1 科目の特徴 1

テーマ 2 本試験の傾向と対策 3

テーマ 3 コースの紹介 4

テーマ 1

科目の特徴

1 科目の特徴

1 住民税とは

住民税は、地方税法の中に「道府県民税」と「市町村民税」として規定されている税金です。個人については、住所の所在する道府県及び市町村において、法人については、事務所等（本店や支店）の所在する道府県及び市町村において納税義務を負うことになります。

これは、住所や事務所等が所在する地域から、様々な行政サービス（教育・福祉・道路・下水道・消防・清掃等）を受けることから、その行政サービスに要する費用の一部を負担しあうことを目的としています。

2 住民税の学習上のポイント

個人に対して課税する場合には、所得税法上の所得計算の規定を引用し、法人に対して課税する場合には法人税法の規定によって算定された法人税額を基礎としますので、所得税や法人税の知識も多少必要となります。

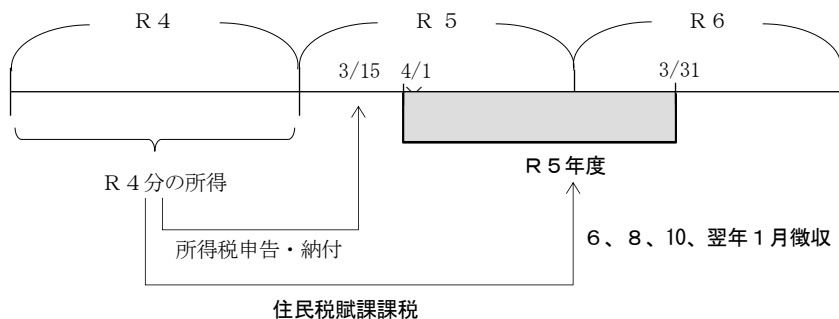
本試験では個人の住民税が出題されますので、所得税の学習経験があるか、あるいは同時学習をすることが、この科目を選択するための条件となります。

3 住民税のアウトライン

(1) 個人住民税

所得税と同じように、その個人の一暦年間（1月1日から12月31日までの期間）の所得に対して課税されます。

但し、所得税と異なり賦課課税方式とされており、課税技術上の理由から前年中の所得に対して課税する前年所得課税制度を採用しています。



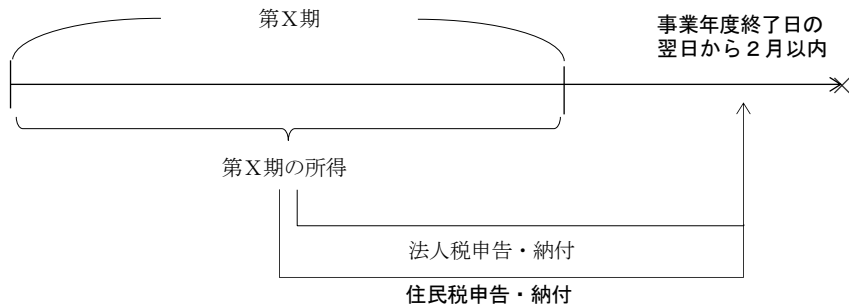
★ 賦課課税方式

納付すべき税額がもっぱら地方団体の処分により確定する方式をいいます。

(2) 法人住民税

法人税と同じように、その法人の事業年度ごとに課税されます。

法人住民税は、申告納付方式を採用しており、納税者は法人税の確定申告書の提出期限までに住民税の申告書を提出し、その申告に係る住民税を納付しなければなりません。



★ 申告納付方式

納付すべき税額が納税者の申告により確定する方式をいいます。

2 学習の概要

1 理論

計算とリンクする理論、徴収関係の理論とがあります。

住民税の理論は、主に次のようにグループ分けすることができます。

合格するのに暗記が必要な理論は理論マスターで10題程度です。

(1) 住民税固有の内容

(2) 所得税と住民税の相違点

※ 改正項目は、今年度と翌年度の相違点を問われることがあります。

2 計算

計算は、個人、法人と学習はしますが、本試験での出題は個人住民税となります。

(法人住民税は過去1度だけ出題実績があります。)

学習内容の8割程度は所得税の学習内容と同じとなりますので、住民税固有の項目を中心に学習していきます。

テーマ 2

本試験の傾向と対策

1 受験者数・合格者数・合格率の推移

	平成29年 (第67回)	平成30年 (第68回)	令和元年 (第69回)	令和2年 (第70回)	令和3年 (第71回)
受験者数	456人	460人	410人	381人	378人
合格者数	65人	62人	78人	69人	48人
合格率	14.3%	13.5%	19.0%	18.1%	12.7%

2 出題傾向

1 理 論

周期的に繰り返し出題されているものと、改正によって内容が変わったもの、新たに新設されたものが出題される傾向にあります。そのため、理論は項目を絞りやすく、比較的難易度は低めです。暗記すべき理論も10題程度と他の科目と比べ少ないので、所得税と並行して学習して頂いても両立がしやすいと思います。

2 計 算

本試験では、納税義務者の世帯（家族）全員分の住民税額を計算する問題が出題されます。過去問題と似通った問題が出題されるため、ミスなく解くことができればかなりの高得点が望めます。合格するためには、できる限りミスなく解くことが必要になります。

テーマ 3

コースの紹介

1 12月速修コース

住民税は、所得税と学習項目が重複しますので、所得税の学習経験者の方は、1月からの学習で充分合格できます。12～2月で、個人住民税の計算を固め、3月に法人住民税、4月に徴収関係の理論項目を学習しますと、本試験の合格に必要な学習がすべて終わります。

直前期に、過去問題対策をして、理論暗記を進めて頂ければ必ず合格レベルに到達します。

12月	基 礎 期	5月	直 前 期	7月
	<使用教材> ・基本テキスト ・トレーニング ・ポイントチェック ・理論マスター ・ミニ・実力テスト		<使用教材> ・直前対策テキスト ・理論マスター ・補助問題 ・答練 ・全国公開模試	
	インプット中心		アウトプット中心	

<具体的カリキュラム>

基礎期 (12～4月)	講義を通じて本試験で最も重要な基本論点のインプットを行い、定期的に行う「実力テスト」を通じて適宜インプットした知識の習熟度をチェックします。
直前期 (5～7月)	「直前対策講義」では、税制改正や特殊論点の対策を行いつつ、基礎期でインプットした知識の総まとめも行います。また、隔週実施する「答練」で本試験レベルの演習を行い、本試験に向けて答案作成力に磨きをかけます。